

第22回総会および促進大会次第

第1部 総会（午後2時～午後2時30分）

- (1) 開 会
- (2) 会長挨拶
- (3) 役員紹介
- (4) 議長選出
- (5) 議 事
 - 認定第1号 平成24年度事業報告
 - 認定第2号 平成24年度歳入歳出決算報告
 - 監査報告
 - 議案第1号 平成25年度事業計画
 - 議案第2号 平成25年度歳入歳出予算
- (6) 閉 会

第2部 自転車問題解決促進大会（午後2時45分～午後3時45分）

- (1) 開 会
- (2) 会長挨拶
- (3) 開催市長挨拶
- (4) 来賓祝辞
- (5) 来賓紹介
- (6) 役員紹介
- (7) 表彰者の発表
- (8) 意見発表
- (9) 大会決議
- (10) 閉会のことば
- (11) 閉 会

第3部 講演会（午後4時～午後4時45分）

- (1) テーマ 自転車対策の方向性について
(負の要因から正の要因への変革)
- (2) 講演者 日本大学名誉教授
榛澤芳雄 先生

平成 25 年 5 月 23 日（木）に全国自転車問題自治体連絡協議会総会および自転車問題解決促進大会が千葉県船橋市の船橋グランドホテルにて以下のとおり開催された。

第 1 部 総 会

会長（志村豊志郎 練馬区長）挨拶



志村会長

議長には静岡市・小林孝好氏が選出され、全自連事務局長の練馬区・鷺田功氏の説明により議事が進行し、昨年度の事業報告・歳入歳出決算および監査報告、今年度の事業計画・歳入歳出予算についてすべて滞りなく承認・可決された。



議長 静岡市 小林孝好氏



全自連事務局長 練馬区 鷺田功氏

第2部 自転車問題解決促進大会

志村会長の挨拶後に開催市（船橋市）市長、来賓各位から祝辞が述べられた。



開催市 船橋市長 藤代孝七氏



衆議院議員 野田佳彦氏（前首相 船橋市選出）



参議院議員 小泉昭男氏
（自転車活用推進議員連盟幹事）



内閣府 宮岡俊輔氏

挨拶終了後に役員・来賓の紹介、宝塚市・酒井正美氏による意見発表、京都市の小川健一郎氏による大会決議、そして次回（平成 26 年 5 月）の総会開催地となる埼玉県越谷市・荒井隆之氏の閉会の言葉で終了した。



宝塚市 酒井正美氏



京都市 小川健一郎氏



越谷市 荒井隆之氏

第 3 部 講演会 他

日本大学名誉教授 榛澤芳雄氏による講演「自転車対策の方向性について」が行われた。



日本大学名誉教授 榛澤芳雄氏

その後グループ別研修会を行い、第 1 日目の日程は終了。

翌 24 日は午前 9 時より船橋市内の自転車走行レーン、船橋駅、高根公団駅の駐輪場の施設見学会が行われた。

全国自転車問題自治体連絡協議会 第22回総会

平成25年5月23日

【司会】 会場の皆様、お待たせをいたしました。ただいまより、全国自転車問題自治体連絡協議会第22回総会を開催いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます、私、古川ヤイ子と申します。本総会が円滑に運営できますよう、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、初めに、会長、志村豊志郎練馬区長からご挨拶を申し上げます。

【志村会長】 ただいまご紹介を賜りました、全自連会長の練馬区長、志村豊志郎でございます。

本日は、大変お忙しい中、全国各地からご参集賜りましたことを、心から御礼申し上げます。

全自連は、平成4年の設立から今年で22年目を迎えることができました。これもひとえに皆様のご理解とご協力のたまものと感謝申し上げる次第であります。これまでの間、全自連は自転車法改正への取り組みや、研修会等を通じた、会員自治体の連携を図り、各会員の放置自転車対策に大きく貢献してまいりました。

さらに、会員自治体の積極的な取り組みもあり、内閣府発表による全国の駅周辺における放置自転車は、平成4年の全自連発足当時の80万台から、平成23年には約80%減少し、17万7,000台まで大きく減少してまいりました。

一方、放置自転車問題の抜本的な解決に向け、自転車法改正による鉄道事業者への自転車駐車場の附置義務化、及び市区町村が走行環境整備に柔軟に取り組める環境の創出を国に要望してまいりましたが、いまだ自転車法の改正には至っておりません。引き続き、自転車法の改正を求めるとともに、今後も全自連として、鉄道事業者との協議の場を実現できるよう、国に働きかけてまいりたいと考えております。

また、自転車問題の新たな課題として、走行環境の整備や自転車利用のマナーについて、全自連として取り組んでいくことを数年前から大会決議に盛り込んできたところであります。このような中、昨年には、国土交通省並びに警察庁により、安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインが作成され、自転車走行空間の設計など、具体的な課題への標準的な考え方が示されたところであります。

そこで、こうしたガイドラインの活用や、先進的な自治体の実例を参考にさせていただきながら、さまざまな課題にも積極的に取り組んでいくことで、自転車を取り巻く諸問題が解決されるものと信じております。

本日は、多くの議案がございます。この議案をご審議いただき、今年度の全自連の活動が有意義なものになることを切に願っております。そして、全自連の結束をさらに強めていく中で、自転車問題解決の実現を図ってまいりたいと考えております。

最後に、お忙しいところ、全国からお集まりいただきました皆様に、今一度厚く御礼申し上げます、ご挨拶いたします。ありがとうございました。(拍手)

【司会】 ありがとうございます。

次に、全自連役員を紹介させていただきます。今ほどご挨拶を申し上げます、会長、志村豊志郎練馬区長です。

続いて、副会長市、副会長、谷藤裕明盛岡市長代理、交通政策課長片岡修です。

同じく 邑上守正武蔵野市長代理、交通対策課長大田雅彦です。

同じく 田辺信宏静岡市長代理、小林孝好交通政策担当部長です。

同じく 高谷茂男岡山市長代理、平澤重之自転車先進都市推進担当室課長です。

同じく 野志克仁松山市長代理、高市健次総合交通課長です。

続いて、理事市、各市長は公務により、いずれも代理の出席となります。

理事、伴野純一札幌市自転車対策担当課長です。

同じく 星野克美宇都宮市道路保全課長です。

同じく 荒井隆之越谷市協働安全部長です。

同じく 片山壮二船橋市建設局長です。

同じく 大津明博相模原市都市整備課長です。

同じく 沙一明高岡市地域安全課課長補佐です。

同じく 小川健一郎京都市自転車政策課調整係長です。

同じく 西川雅昭枚方市交通対策課長です。

同じく 酒井正美宝塚市防犯交通安全課係長です。

同じく 丸久哲郎久留米市都市建設部長です。

続いて、監事市。監事、廣瀬陽一豊島区交通対策課長です。同じく 岡田陸夫城陽市都市管理部長です。

以上、全自連役員の紹介でございました。

次に、本日の総会の議長を選出したいと存じます。議長については、全自連規約第15条により、会長もしくは会長が指名する者をもって充てるとなっております。あらかじめ、志村会長より、議長について、静岡市長をご指名いただいております。本日は、代理の交通政策担当部長小林様をお願いいたします。それでは、小林様、よろしくをお願いいたします。

【小林議長】 ただいま、議長に選任されました、静岡市の小林でございます。本日は、田辺市長が公務のため、欠席となっております。私が議長を務めさせていただきます。至らぬ点多々あろうかと存じますが、つつがなく議事が進行できますよう、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

まず初めに、本日の出席者及び委任状提出者の合計が122、内訳といたしましては、出席者64、委任状58の数が確定したため、お知らせいたします。この122となりましたことから、会員総数134の過半数に達しましたので、全自連規約第15条に基づき、本総会が有効に成立したことをここに報告いたします。

それでは、議事に入らせていただきます。まず初めに、認定第1号「平成24年度事業報告」から審議に入ります。全自連事務局長であります、鷺田功練馬区環境まちづくり事業本部土木部長に、認定第1号について、説明をお願いいたします。

【鷺田事務局長】 ただいまご紹介いただきました、事務局長を務めております練馬区環境まちづくり事業本部土木部長の鷺田功でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、認定第1号「平成24年度事業報告」についてご説明をいたします。お手元の第22回総会の冊子、3ページをお開きください。

まず、1でございます。平成24年度事業といたしましては、第21回総会を平成24年5月31日に相模原市の小田急ホテルセンチュリー相模大野で開催をいたしました。また続きまして、第二部自転車問題解決促進大会、第三部講演会、グループ研修会、さらに見学会を実施しておりますので、詳細につきましては、3ページ、4ページをお目通しをいただきたいと思っております。

なお、総会の開催に当たりまして、ご尽力をいただきました相模原市の関係の職員の皆様に、この場をおかりしまして改めて御礼を申し上げる次第でございます。ありがとうございました。

次に、4ページをお開きください。下のほうでございますが、2の国土交通省との意見

交換会及び働きかけでございます。8月3日に、国土交通省会議室におきまして、全自連総会において採択した決議文を国土交通省3局に提出をいたしました。

5ページでございます。11月1日には、自転車走行環境整備にかかる国の支援についての、実施しましたアンケートの集計結果を国土交通省に送らせていただいております。平成25年1月18日には、自転車走行環境整備に当たっての国の支援について、要請をしたところでございます。

次に平成24年度、役員会の開催でございます。第1回開催につきましては、総会開催に合わせまして相模原市で開催いたしました。それから、第2回役員会につきましては、平成24年10月18日に岡山市で開催をいたしました。案件につきましては、記載のとおりでございます。

なお、役員会開催に当たりまして、相模原市及び岡山市の関係職員の皆様にはご尽力いただいたことを、この場をおかりしまして改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

次に、6ページをお開きください。全日本研修会でございます。平成24年度は、岡山市で10月18日、19日に実施いたしました。内容は、岡山大学理事・副学長阿部宏史先生を講師にお招きし、「自転車利用の促進とまちづくり」をテーマにご講演をいただきました。また、松山市の事例発表が行われました。

なお、全日本研修会の実施に当たりまして、開催市の岡山市の関係職員の皆様に、そして事例発表を行っていただいた松山市の関係職員の皆様にご尽力いただいたことを、この場をおかりしまして御礼申し上げます。ありがとうございました。

次に、5の功労者表彰でございます。これにつきましては、表彰要綱に基づきまして、各自治体の自転車対策において顕著な事績を有する方に対しまして、表彰状と副賞を授与させていただきました。表彰者につきましては記載のとおりでございます。

以上、事業報告とさせていただきます。よろしくご審議のほどお願いいたします。

【小林議長】 では、認定第1号につきまして、ご質疑をお願いいたします。なお、議事の進行がございますので、ご質問はお一人1回とさせていただきます。ご質問の方は、挙手をお願いいたします。ご質疑はございませんでしょうか。

特にご質疑、異議もございませんようなので、異議がございませんでしたら、拍手をもってご賛同をお願いいたします。

(拍 手)

【小林議長】 異議がないものと認めます。これにより、認定第1号は承認されました。

次に、認定第2号「平成24年度歳入歳出決算報告」について審議いたします。事務局長、説明をお願いいたします。

【鷺田事務局長】 それでは、認定第2号「平成24年度歳入歳出決算」について、ご説明をいたします。冊子の7ページをごらんください。

決算の額でございますが、歳入の部につきましては、会員自治体129自治体及び賛助会員6団体による会費収入が264万円、それから書籍の頒布や預金利息などの雑収入が4,640円、平成23年度より繰越金が219万147円で、歳入合計は483万4,787円でございます。

次に、歳出の部でございますが、歳出につきましては、事業費と事務費を合計いたしまして、267万6,299円でございます。支出の大きかったものは、大会費、研修費、ホームページ運用経費などの定例的な支出でございます。

なお、繰越でございますけれども、下の表でございますが、215万8,488円でございます。これは25年度への繰越金とさせていただきます。

以上、認定第2号の説明とさせていただきます。よろしくご審議のほどお願いいたします。

【小林議長】 続きまして、会計監査報告をお願いいたします。会計監査は、監事であります豊島区、城陽市において行われました。本日は、廣瀬陽一豊島区交通対策課長、岡田陸夫城陽市都市管理部長に報告をお願いいたします。

【廣瀬監事】 それでは、会計監査報告をさせていただきます。

平成24年度歳入歳出決算につきましては、帳簿、通帳等の関係書類を慎重に審査させていただきました結果、ここに記載のとおり相違ないことをご報告申し上げます。

監事、豊島区、廣瀬陽一。

【岡田監事】 監事、岡田陸夫。

【小林議長】 ただいま、事務局長及び監事より、平成24年度歳入歳出決算並びに会計監査報告を受けました。

認定第2号につきまして、ご質疑をお願いいたします。

マイクのほうをお願いいたします。ご質問の前に、自治体名とお名前のほうをお願いいたします。

【桐谷（市川市）】 千葉県の市川市役所の桐谷と申します。実は、私ども市の行政監査

がありまして、その中でやはり負担金の関係のことを問われまして、その中で繰越額の割合がちょっと多いのではないかということがありまして、やはり公金等から支出しているために、負担額の減額等も実は考えていただきたいと思っております。また、繰越金に関しましては、事務局で照会をかけたところなんです、市区町村自転車対策事業紹介の全国版の作成費が不足しているということもありまして、これに充当するとのことですが、こういうことであれば、規約の中で基金などの位置づけ等を採用するのを考えられたらいいかと思ひまして、ご提案申し上げます。

以上です。ありがとうございました。

【小林議長】 それでは、ただいまのご質問というかご意見、これにつきまして、事務局長よりご説明等、お願いできますでしょうか。

【鷺田事務局長】 事務局長の鷺田でございます。大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。今回の歳入歳出決算につきまして、繰越金の額が多いのではないかというお話でございます。全自連のほうでは、2年に1度、自転車対策事業状況調査というを行っているわけなんですけれども、平成23年度が震災の関係で実施できなかったということもございまして、今回その分の余りが繰越金という形でここまで来ているという現状がございます。今年度も後ほどの予算案のほうでお話をさせていただこうと思っております。今、いただきましたご指摘につきましては、今後役員会も開かれますので、そういった場で改めて検討させていただければと思っております。よろしく願いいたします。

【桐谷】 ありがとうございます。

【小林議長】 そのほかに、ご質問等ございましたら、挙手のほうをお願いいたします。

それでは、特にほかに挙手はありませんが、ご異議がございませんようでしたら、拍手をもってご賛同をお願いいたします。

(拍 手)

【小林議長】 異議がないものと認めます。これにより、認定第2号は承認されました。

続きまして、議案第1号「平成25年度事業計画」及び議案第2号「平成25年度歳入歳出予算」について審議いたします。議案第1号、第2号の審議については、一括説明とさせていただきます。では、事務局長、説明をお願いします。

【鷺田事務局長】 それでは、冊子の9ページをお開きください。議案第1号及び第2号を続けてご説明いたします。まず、議案第1号「平成25年度事業計画」でございます

が、最初に本日の総会について記載をしております。

次に、研修会でございますが、全日本研修会を、平成25年10月に松山市が担当し、開催する予定でございます。会場については、松山市内を予定しております。

次に、役員会でございますが、第1回役員会については、本日午後5時から当ホテル地下1階蘭の間におきまして、開催する予定でございます。第2回役員会については、全日本研修会と同日に、松山市で開催する予定でございます。

次に、来年5月に開催する次期総会であります。埼玉地区で、越谷市が担当となります。

続きまして、10ページをお開きください。議案第2号「平成25年度歳入歳出予算」でございます。まず、歳入の部でございますが、会費は、本年度の会員数が128団体、賛助会員は9団体となる予定でございますので、265万円を見込んでおります。雑収入でございますが、書籍頒布等でございます。昨年度予算より5,000円減の5,000円を見込んでおります。繰越金でございますが、昨年度より3万2,000円減の215万8,000円となります。以上、歳入合計は、481万3,000円を見込んでおります。

歳出の部でございますが、まず、事業費でございます。大会費、行動費、研修費、ホームページ運用経費、需用費ともに昨年度予算と同額とさせていただきました。また、先ほども出ましたけれども、2年に1度行ってます、自転車対策事業状況調査のために、調査費100万円を計上させていただき、①の事業費の計は429万5,000円を見込んでおります。

次に、②事務費でございますが、通信運搬費、それから交通費ともに昨年度予算と同額とさせていただきました。

また、③予備費については、35万8,000円といたします。

以上、歳出合計、481万3,000円を見込んでおります。

これをもちまして、議案の第1号、議案第2号の説明とさせていただきます。よろしくご審議のほどお願いいたします。

【小林議長】 ただいま、事務局長から、議案第1号及び第2号について説明がありました。

まず、議案第1号について、ご審議をお願いいたします。特にご質問のほうございませんでしょうか。

それでは、ご異議がなければ、拍手をもってご賛同をお願いいたします。

(拍 手)

【小林議長】 異議がないものと認めます。これにより、議案第1号は可決されたものといたします。

続きまして、議案第2号について、ご質疑をお願いいたします。ご質問等ありましたら、挙手のほうをお願いいたします。

それでは、ご異議がなければ、拍手をもってご賛同をお願いいたします。

(拍手)

【小林議長】 異議がないものと認めます。これにより、議案第2号は可決されたものといたします。

以上をもちまして、第22回総会の認定事項の質疑及び議案事項の審議をすべて終了いたします。議事進行にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。

ここで、議長としての大任を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

(拍手)

【司会】 これをもちまして、第22回総会の議事をすべて滞りなく終了いたしました。

議案審議に議長としてご尽力を賜りました静岡市の交通政策担当部長、小林様、大変ありがとうございました。

以上で、全国自転車問題自治体連絡協議会第22回総会を終了させていただきます。

ご協力、まことにありがとうございました。

引き続きまして、第2部の自転車問題解決促進大会を2時45分より、この会場で行います。役員の方は一旦退場していただきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。皆様は、しばらくの間、お待ちください。

ありがとうございました。

— 了 —

全国自転車問題自治体連絡協議会

第22回 自転車問題解決促進大会

平成25年5月23日

【司会】 会場の皆様、お待たせをいたしました。ただいまより第22回自転車問題解決促進大会を開催いたします。

総会に引き続きまして司会進行を務めさせていただきます古川ヤイ子と申します。促進大会が円滑に運営できますよう、皆様のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、初めに、全自連会長の志村豊志郎練馬区長よりご挨拶を申し上げます。

【全自連会長（志村練馬区長）】 ただいまご紹介を賜りました全自連会長の練馬区長志村豊志郎でございます。先ほどの総会から引き続き、皆様、大変ご苦勞さまでございます。

本日、公務ご多忙のところ、ご来賓としてご臨席を賜りました国会議員の先生方、各関係省庁の皆様には厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

本協議会も、結成してから既に20年を越えて、ここ船橋市で第22回の促進大会を開催させていただくことになりました。これもひとえにご列席の皆様方や関係各位のご協力のたまものであり、役員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、自転車は私たちの生活に最も身近な交通手段であり、環境にも優しく、健康増進にも役立つものとして、ますます利用が高まっております。これを受け各自治体では、自転車走行空間の整備への取り組みが盛んに行われております。一方で、自転車による事故の増加や運転マナーの低下もあり、自転車利用のルールやマナーも大きな課題となっております。こうしたことから、安全で快適な走行環境を確保することを、全自連での取り組みの中で大きなテーマの1つとしております。

このような中で、昨年には国土交通省、警察庁から安全で快適な自転車利用創出ガイドラインが示されたところであります。今後とも国及び都道府県におかれましては、市区町村が行う自動車の走行環境の整備に対して財政的支援を拡充、拡大していただくとともに、市区町村が柔軟に取り組めるような環境の創出にご尽力いただきたいと願うものであります。

また、自転車の走る環境を整えば、当然、自転車をとめる環境も整えなくてはなりません。

ん。鉄道駅周辺の放置自転車は、全国的には一定の改善が見られ、減少傾向にあるとはいえ、内閣府の最新の調査結果においては、いまだ全国に約18万台もの自転車が放置されておりまして、関係自治体の大きな負担となっております。鉄道駅は、鉄道とバス、自転車交通との結節点として人々が集中するため、放置自転車を誘発する施設であります。

そのため駅周辺の交通環境の整備及び町の安全・安心の確保の点からも、自転車駐車場の整備は不可欠であります。そのためにも、鉄道事業者には自転車駐車場設置の協力義務ではなく、ここが大事だと思いますが、協力義務ではなく、みずから整備する附置義務を課すといった、自転車法の改正が必要であるというのが、私ども全自連の主張であります。

また、最近では、国会議員の先生方による自転車活用推進議員連盟において、自転車活用プロジェクトチームが発足されたと聞き及んでおります。自転車に対する関心が高まっている中、今後とも、私ども全自連としては、自転車問題を早期解決に向けて取り組むとともに、環境に優しい乗り物である自転車が、21世紀の都市交通の主役となるよう願ってやみません。

本日、ここにご臨席のご来賓の皆様におかれましても、ぜひとも私どもの熱意を受けとめていただき、より一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

最後に、本日、ご臨席の皆様のご健勝と自転車問題の抜本的解決を祈念いたしまして、簡単ではございますが、私からのご挨拶といたします。

ありがとうございました。(拍手)

【司会】 ありがとうございました。

次に、開催市、藤代孝七船橋市長よりご挨拶を申し上げます。

【開催市市長（藤代船橋市長）】 こんにちは。ご紹介をいただきました地元市長の藤代孝七でございます。

本日は、ようこそ船橋にお出かけをいただきました。心よりご歓迎を申し上げます次第でございます。第22回の全国自転車問題自治体連絡協議会総会並びに自転車問題解決促進大会、全国各地からお越しをいただきまして、盛大に開催されますことを、まずもって、心からお祝いを申し上げます。

また、公務ご多忙の中、ご臨席を賜りました野田前総理、この船橋の地元でございますけれども、はじめ、各位の皆様方には大変お忙しい中、そして関係省庁の皆様方にも厚くお礼を申し上げます。

船橋にお越しをいただきましたので、本市につきまして少々ご紹介をさせていただきますけれども、この船橋市は昭和12年に2町3村が1つになりまして、人口4万3,000人をもちましてスタートいたしてございます。昭和30年代の半ばを越えましてからというものは、毎年2万人を越える方が、この船橋に移り住まわれてございます。2万人と言いますと、これは大変な人数でございますから、まず都市基盤整備がおくれてしまい、そして学校建築に追われていたのが実情であるわけであります。

今、この船橋には鉄道が9路線の35駅ございます。JR総武線船橋駅、西船橋駅、そして津田沼駅、これの乗降客が大変な数を数えまして、総武線におきましても、ワン、ツー、スリーの乗降客でございます。

そういった中でございますから、この船橋はまさに狭隘な道路の中であるわけでありませう。あの戦災にも遭ってはございませんし、そういった中でまちづくりでございますから、極めて難しいものがあつたわけでございますが、今現在の人口は61万5,000人でございます。漸増で67万人を超えるであろうと、このように予測をいたしているところでもございますが、これは前面に干潟・浅海域の三番瀬をはじめといたしまして、昔の年代の方はわかるかもしれませんが、船橋ヘルスセンターがございました。このヘルスセンターが今のららぽーとということで生まれ変わってございまして、ここにはイケア・ジャパンもうオープンしてございます。実は、年間に二千四、五百万人の方が行き交ってございます。

そして、中心市街地、大きな店があるわけでございますけれども、この船橋から1駅の東武線新船橋駅前にはイオンモールが、昨年、オープンしてございまして、1,300人を予定いたしているということで、連日にぎわっているわけなんです。

北に入りまして、緑豊かな大地が広がってございまして、先般、このブランド化になりました人参、この船橋人参は指定産地でございまして、大変な生産額がございまして、そしてまた、梨と。これらも一生懸命、都市農業を堅持しているという中に、実はアンデルセン公園がございまして、このアンデルセンと名のつく公園というのは、世界中で船橋にしかございませんので、ぜひひとつ、お出かけいただければありがたいなと、このように思っています。

そういった都市環境の中ではございますけれども、実はこの道路環境、先ほども申し上げましたけれども、極めて、船橋は厳しい状況にございます。本市の自転車を取り巻く状況でございますが、駅周辺でもちまして、年間1万台を超える放置自転車を撤去いたして

いる状況でございます。放置自転車には各自治体とも大変苦慮をしていると思っておりますけれども、私どもも同じでございます。

このことから、平成25年度、26年度の2カ年をかけまして、自転車等駐車対策に関する総合計画を策定し、抜本的な対策を検討する予定でございます。自転車に関する事故につきましては、全交通事故件数に対する割合は、全国では約20%と言われておりますけれども、本市はそれよりも高く、30%台ということで、非常に憂慮いたしているところでもございます。

昨年11月、歩行者と自転車利用者の安全対策として、千葉県内2例目となります自転車レーンを整備いたしました。今後、検証し、自転車走行環境整備計画を策定する予定でございます。

確かに、自転車は環境に優しく、手軽に利用できる便利な乗り物として、市民の通勤や通学等の交通手段として多く利用されておりますが、今後もその利用は増加するものと見込まれておりますので、自転車を安全・安心に利用できる環境づくりに取り組んでまいりたいと、このように思っております。

実は、私どもデンマーク王国オーデンセ市と姉妹都市を結んでございます。その節にお邪魔させていただいたときでございますけれども、道路から通常、バスや普通の乗り物全部走っていますけれども、その隣に自転車レーンがどこに行っても続いている。そして歩道なんです。国土がデンマークはそんなに大きくないんですけれども、そういったことが、昔からやってきている国というのは、これはやはり、私ども車から降りてから、自転車がものすごいスピードで走っていますから。これは、ほんとうに注意しなければならないぐらいに、いい勉強になってございます。また、自転車も国内で生産されております自転車と違いまして、チェーンを走ってから戻すことができないんです。ですから、前に踏むだけですから。

そういったことも経験させてもらいましたけれども、何といたしましても、船橋からいたしますと、ほんとうにうらやまし限りでございました。ですから、何といたしましても、こういった自転車レーンができ得れば最高の市政運営ができるわけでございます。

どうぞ、ひとつ、全自連の皆様方、今日、各市から、各自治体からお集まりでございます。そういったことも踏まえた検討をしていただければ、大変ありがたいと思っております。

まずは、皆様方にお出かけをいただきましたこと、改めてお礼を申し上げますとともに、

どうぞ船橋をよくよく知っていただければありがたいと、このように思います。

最後になりますけれども、船橋にはJRAもございます。そしてまた船橋競馬場もございます。オートレースもございます。昔はよくギャンブルの町と言われましたが、今は決してそのようなことではございませんけれども、これだけの人口を抱えている都市でございますから、どうぞ、ひとつ、皆様方にもご理解をいただいた中に、船橋にお出かけをいただければ大変ありがたいと思っております。

皆様方のご健勝を心からご祈念を申し上げまして、大変整いませんけれども、挨拶いたします。

ありがとうございました。(拍手)

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、本日、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様よりご祝辞を賜りたいと存じます。

初めに、本促進大会開催地の船橋市選出衆議院議員、野田佳彦様よりご祝辞を賜りたいと存じます。野田様、よろしく願いいたします。

【野田衆議院議員】 どうも皆様こんにちは。船橋市選出の衆議院議員の野田佳彦でございます。

ようこそ船橋市にお越しをいただきました。もう歓迎の言葉と船橋の魅力については、藤代市長からお話ございました。そのことについては割愛をさせていただきたいと思えます。

また、自転車問題については、私の後に小泉先生がお話をされると思いますが、小泉先生は神奈川から国会まで自転車で通勤をされているという方ですので、まさに自転車のお話は小泉先生に委ねたいと思えます。

ということで、私の言うことは何もなくなってしまいますけれども、昨日、たまたま朝日新聞を見ていたら、放置自転車問題で、地下方式等々、最新鋭の方式で駐輪場づくりが進んでいるという記事を読ませていただきました。タイムリーな記事だったので、ちょうど読ませていただいたんですけれども、こういうようなソフト面における、ハード面におけるさまざまな技術の革新というのは、おそらく、この全自連で、皆さんが知恵を出し合って、それがだんだんと広がっていった結果なんだろうと思えます。改めまして、この22年間における、皆様の取り組みに心から敬意を表したいというふうに思います。

自転車ですから、自転車で例えて申し上げますと、自転車の前輪が自転車を使うユーザーである国民だと思います。後輪が、それにかかわる、自転車問題にかかわるセクターです。

国もしかり、県もしかり、鉄道事業者もしかり。それをつないでいく、前輪と後輪をつないでいくチェーンの役割が一番、前輪側の国民にも接し、さまざまなセクター、後輪とも接している、私は全自連に所属をされている市区町村の皆様だと思えます。

そのチェーンの役割をこれからも大いに果たしていただきまして、自転車にかかわる諸問題が大きく前進をする平成25年度となることを心からご祈念申し上げまして、簡単でございますけれども、お祝いの言葉にかえたいと思えます。

おめでとうございます。(拍手)

【司会】 野田議員、ありがとうございました。

続きまして、自転車活用推進議員連盟幹事、参議院議員、小泉昭男様よりご祝辞を賜りたいと存じます。お願いいたします。

【小泉参議院議員】 ただいまご紹介いただきました、参議院議員の小泉昭男でございます。

本来であれば、谷垣議連の会長がお伺いしてご挨拶を申し上げるところでございますが、議連の中に自転車活用推進プロジェクトチームというのが、先日設けられまして、その座長に指名をいただきましたその関係から、私が今日、国会のほうを代表してということで、お伺いをさせていただきました。

先ほど全自連の会長さんのお話もございましたし、また、市長から大変有意義なお話をいただきました。本市が4万人からスタートして、60万を超える大都市に発展された。この陰には、地元で働く皆さん方の大変なご努力、英知の結集があったものと敬意を表したいと思います。また、本日は、この場に全国からお集まりをいただいている皆さん方には、ほんとうにこの問題に対して真摯にお取り組みをいただいていることに心から感謝を申し上げたいと思えます。

野田先生から、今、小泉さんは、朝、自転車で通っていると言われましたけれども、毎日ではありませんで、雨の降る日は無理でありますし、また、会議等、頻繁にあるときには、どうしても無理なことがございますが、私が、なぜ自転車に乗っているかということ、やはり道路整備だとか、そういうものをほんとうに身近に感じます。わだちがつくられているところ、また排水溝のすき間に自転車の車輪が入ってしまう。転倒している自転車をよく見ます。それと、最近では歩道を走ってはいけないということが、大分浸透してきたように思います。警察官も車道を走るようになりましたから。

それと、心配しているのは、若いお母さん方が、お子さんを後ろに、前に乗せて車道を

無理に走っている姿をよく見るんです。これは何とかしないといけないと思います。先ほど市長のお話にございましたとおり、毎年2万人ずつぐらい増えたということでもありますから、高度経済成長期には物流が優先して、移動の手段であるものがなかなか、歩くこと、自転車のことが置き去りになってしまった時期があったのではないかと思います。そういう意味では、お話にもございましたとおり、日本も先進国の一員でございますから、もっともっと有効活用いただける、そういう環境づくりも必要だと思います。

また、駐輪場の問題ですけれども、ただ自転車をとめられる駐輪場ではだめだと思うんです。高級な自転車もとめられる駐輪場が、これから船橋にも、また全国に必要だと思うんです。と申しますのは、自転車も1つの財産ですから、自分のステータスである、そして自分の移動手段である。高いものは100万円を超える自転車もある時代になりました。9,000円で買える自転車もあります。放置自転車の中には、高額なものも見受けられる気がするんですが、やはり高価な自転車もしっかりと安心してとめていかれる、そういうまちづくりができますと、その町のグレードも上がってくると私は思っております。

野田先生がおっしゃったように、前輪と後輪をつなぐのはチェーンだと。これはエネルギーロスがあってもいけませんし、自治体の皆さん方のご努力がそがれるようなこともあってもいけないと思いますので、私たちプロジェクトチームの一員として、また超党派の議員連盟として微力を尽くしていくことをお誓い申し上げたいと思います。

本日、国土交通委員会も会議がございまして、私は国土交通の筆頭理事をお世話になっておりまして、先ほど法案も1つ通りました。このまま、また国会に戻りまして、微力を尽くさせていただきたいと思います。

野田総理時代に、野田先生が、どうしてあの体力が維持できたか。私が想像するには、もしかしたら総理官邸の中に自転車をこげる場所があったのではないかなど。このぐらい健康管理を要求される激務でありました。それをお務めいただいた野田先生に心から敬意を表しますとともに、本市のますますのご発展と、全自連のこれからの皆様方のご努力が、しっかり成果が上げられることをご期待申し上げまして、一言といたします。

本日はご盛会でおめでとうございます。失礼いたしました。(拍手)

【司会】 小泉議員、まことにありがとうございました。

退席させていただきます。ありがとうございました。

続きまして、ご来賓の各省庁を代表しご祝辞を賜りたいと存じます。

それでは、内閣府政策統括官、共生社会政策担当付参事官、交通安全対策担当付交通安

全企画調査専門職、宮岡俊介様よりご祝辞を賜りたいと存じます。

【宮岡内閣府政策統括官】 ただいまご紹介いただきました、内閣府で交通安全を担当しております宮岡です。

まず初めに、日ごろから自転車の安全利用や駐車対策などの自転車に関する諸施策に尽力されておられます、全国自転車問題自治体連絡協議会の会員及び関係者の方々に心からの敬意を表します。

近年の交通情勢についてですが、交通事故による死傷者数は平成16年以降減少の傾向にあり、自転車の関連事故による死傷者数につきましても、去年は全体の死傷者よりも大きな割合での減少という形になっております。また、自転車の利用者が加害者となるケースが多い、自転車対歩行者の事故につきましても、去年は減少という形になっております。

自転車につきましては、被害者となる場合だけでなく加害者となる場合もあることから、自転車の交通事故防止対策は、今後も、交通安全における最重要な課題の1つであると考えておきまして、現在、推進中の第9次交通安全基本計画におきましても、道路交通安全を考える3つの視点のうちの1つという形で、歩行者と自転車の安全確保が掲げられているところでございます。

また、政府の取り組みについてですけれども、道路管理者や都道府県警察が自転車ネットワーク計画の策定やその整備、通行ルールの徹底を進めるため、国土交通省と警察庁が共同で安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインを策定しているほか、警察庁が事務局となり有識者から成る自転車の交通ルールの徹底方策に関する懇談会において取りまとめられた提言を踏まえまして、自転車の運転による交通の危険を防止するための交通に関する規定が盛り込まれた道路交通法の一部を改正する法律案を今国会に提出するなど、自転車の安全利用の推進を進めているところでございます。

なお、昨年度もお話ししていることではありますが、内閣府のほうでも自転車に関する交通安全啓発のDVDを作成しているところでありまして、画質は落ちるところではございますが、内閣府の交通安全のホームページのほうでも閲覧が可能となっておりますので、ご活用いただければというふうに思います。

また、別の話に移りますが、放置自転車につきまして、放置自転車は交通上の危険や迷惑はもとより、都市機能、都市景観においてもさまざまな障害をもたらすものであるというものでありまして、自転車交通上の問題となっております。しかし、一時期は100万台近くまで増加した放置自転車ですけれども、徐々に減少を続けておりまして、平成23

年の調査では、先ほどもありましたが、18万台という形で過去最低の台数を記録をしているという状況になっております。

これはひとえに、本日、お集まりの公共交通団体をはじめとします関係の方々のご努力により、日ごろの広報啓発活動、計画的な自転車駐車場の整備、放置の規制や放置自転車の撤去等の対策が着実に進められて、その成果があらわれてきている証拠であると思えます。

自転車を、その機能を十分に生かして有効かつ安全な交通手段として利用を促進していくためには、都市交通におけるその役割と位置づけを明確にしつつ、走行空間の環境整備、駐車対策、自転車利用者に対する広報と啓発、悪質な自転車対策などの諸施策を、ハード、ソフトの両面にわたって一層展開していくことが重要になるかと思えます。ここにおいて、全国自転車問題自治体連絡協議会の重要性がますます大きくなっていくものだと思っております。

最後に、本協議会の今後のますますのご発展と関係者皆様方のご健勝を祈念いたしますとともに、自転車に関する諸施策がさらに前進することを期待いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございます。(拍手)

【司会】 宮岡様、ありがとうございました。

次に、本日、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様をご紹介申し上げます。

初めに国会議員の、先ほどご挨拶をいただきました地元選出の衆議院議員、野田佳彦様でございます。

続きまして、関係省庁並びに関係自治体の皆様をご紹介申し上げます。

先ほどご挨拶をいただきました、内閣府政策統括官、共生社会政策担当付参事官、交通安全対策担当付、交通安全企画調査専門職、宮岡俊介様でございます。(拍手)

警察庁交通局交通規制課警部 鳥生友和様でございます。(拍手)

国土交通省総合政策局総務課交通安全対策室長 押立貴志様でございます。(拍手)

国土交通省道路局環境安全課課長補佐 小澤盛生様でございます。(拍手)

国土交通省鉄道局都市鉄道政策課駅機能高度化推進室長 高桑圭一様でございます。(拍手)

国土交通省都市・地域整備局街路交通施設課企画専門官 東智徳様でございます。(拍手)

東京都青少年・治安対策本部調整担当部違法駐車対策担当課長 森山絹恵様でございます。

す。(拍手)

以上、ご来賓の方々のご紹介でございました。

続きまして、平成25年度の役員の方々をご紹介いたします。

会長 志村豊志郎練馬区長です。(拍手)

理事市 藤代孝七船橋市長です。(拍手)

副会長 谷藤裕明盛岡市長代理 片岡修交通政策課長です。(拍手)

同じく 邑上守正武蔵野市長代理 大田雅彦交通対策課長です。(拍手)

同じく 田辺信宏静岡市長代理 小林孝好交通政策担当部長です。(拍手)

同じく 高谷茂男岡山市長代理 平澤重之自転車先進都市推進担当室課長です。(拍手)

同じく 野志克仁松山市長代理 高市健次総合交通課長です。(拍手)

続いて、理事市。各市長は公務によりいずれも代理の出席となります。

理事 伴野純一札幌市自転車対策担当課長です。(拍手)

同じく 星野克美宇都宮市道路保全課長です。(拍手)

同じく 荒井隆之越谷市協働安全部長です。(拍手)

同じく 大津明博相模原市都市整備課長です。(拍手)

同じく 沙一明高岡市地域安全課課長補佐です。(拍手)

同じく 小川健一郎京都市自転車政策課調整係長です。(拍手)

同じく 西川雅昭枚方市交通対策課長です。(拍手)

同じく 酒井正美宝塚市防犯交通安全課係長です。(拍手)

同じく 丸久哲郎久留米市都市建設部長です。(拍手)

続いて、監事市。監事 廣瀬陽一豊島区交通対策課長です。(拍手)

同じく 岡田陸夫城陽市都市管理部長です。(拍手)

以上、全自連役員のご紹介でございました。

次に、功労者表彰を行います。永年にわたる自転車対策への功績を有する方を表彰することにより、その功績をたたえたいと存じます。お手元の総会資料13ページに功労者の方々のお名前を掲載させていただいております。

自治体特別表彰として、豊島区 横山明樹様、八王子市 溝呂木 洋様に表彰状を贈らせていただきます。

続きまして、本日、祝電をちょうだいしておりますのでここでご披露をさせていただきます。

本日の大会が多くの関係各位のご参加を得て盛会のうちに開催されますことお喜び申し上げます。公務のため今年には出席できず残念に存じます。私ども自転車活用推進議員連盟は、自転車の利活用を進めるため、道路交通関係法や自動車、自転車双方の意識啓蒙など、ハード、ソフト両面での改善を目的に掲げ、活動をいたしております。

放置自転車問題をはじめとしたさまざまな課題に取り組む皆様方とも引き続き連携を図りつつ、自転車問題の解決、自転車利用の促進に努めてまいりたく存じます。

貴協議会のますますのご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

平成25年5月23日 自転車活用推進議員連盟会長 法務大臣 谷垣禎一様、そして自転車活用推進議員連盟事務局長 参議院議院運営委員長 岩城光英様より連名でちょうだいいたしました。ありがとうございました。

もう1通でございます。

平成25年度自転車問題解決促進大会のご盛会を心よりお喜び申し上げます。関係各位の並々ならぬご尽力に敬意を表し、今後、ますますのご活躍とご健康をお祈りいたします。

国土交通委員長 衆議院議員金子恭之様より祝電をちょうだいしております。ありがとうございました。(拍手)

続きまして、意見発表でございます。意見発表は、宝塚市都市安全部防犯交通安全課係長 酒井正美様をお願いをいたします。それでは酒井様、お願いいたします。

野田議員、退席なさいませ。どうもありがとうございました。拍手をもってお送りくださいませ。(拍手)

【宝塚市 酒井係長】 皆様、こんにちは。本日の意見発表をさせていただきます、宝塚市都市安全部生活安全室防犯交通安全課の酒井正美と申します。よろしく願いいたします。

このような大きなステージに上がり、髪の毛も真っ白なんですけれども、心臓バクバク、頭の中も真っ白けになりそうな状況ですが、おまけに会場の名前が黄金の間ということで、きんきらきんで、ちょっと、大変緊張しどおしです。先ほどから心臓がバクバクしておりますが、頑張って発表させていただきます。

私は、宝塚市で交通安全教育のほうを担当しております。この時期、幼稚園、小学校、あるいは高齢者の方の交通安全教室がめじろ押しでありまして、連日あるいは土日でも、交通安全教室、啓発などを行っております。ほかに私の職場としましては、自転車駐輪対策、防犯対策、それと防犯灯、街路灯とも言えますけれども、その担当がございまして、

防犯交通安全課と言っております。

ということで、本日、この発表に当たりまして、あらかじめ資料配布をさせていただきました。本日の意見発表と題した資料と条例、自転車安全利用に関する条例の分、これはまだ案ということです。概要、ちょっとイラスト入りの分のと、条例制定までの流れという資料を用意させていただきましたので、ほとんどこれを読むような形になりますけれども、発表させてもらいますのでよろしく願いいたします。

まず、昨年の大会からですけれども、開催市での促進大会において、全自連の会長様、開催市、さらにはご来賓の方々のご挨拶、大会決議にもありましたように、自転車は環境に優しく、健康増進に役立つことから、その利用が大変高まっております。これに比例するように、自転車の利用者の交通ルールとマナーが遵守されていないために、歩行者を巻き込むなどの、自転車に関係する交通事故が多発しています。自転車利用者の環境整備とともに、これは駐輪場のことも含めてですが、道路も含めて、マナーの向上というのが必要になっております。

本題に入ります前に、宝塚市ってどんなところというところなんですけれども、宝塚市は兵庫県の南東部に位置します。南は神戸市、もう少し行ったら、尼崎、西宮市さんとか、阪神間の都市がありまして、ややその中でも、阪神間のやや北部にもなりますけれども、兵庫県で言いますと南東部に位置します。市域は南北に細長い住宅地の南東部、それと北部は山間部という自然の多いところがございます。市街地からは、大阪や神戸、いずれも電車で約30分圏内でございます。歌劇と温泉の町ということで、宝塚歌劇。温泉もあったんですけれども、最近では阪神・淡路の大震災以降、閉鎖した温泉地もありますので、やや温泉の町というイメージは薄くなってきておりますが、年間約870万人ほどの観光客がいらっしゃいます。

私どもの宝塚市の職員の名刺には鉄腕アトムイラスト入り、あるいは宝塚歌劇の劇場の様子の写真入りの名刺があります。宝塚歌劇は宝塚、鉄腕アトムというのは、手塚治虫さんが幼少期にいらっしゃったということで、鉄腕アトムの名刺などもございます。

ということで、そのような町なんですけれども、面積101.89平方キロメートル、人口22万8,000人、世帯数で約9万3,000世帯というようなところがございます。交通で申しますと、JR福知山線、これは脱線・転覆事故ということで、大変悲惨な列車事故がありましたけれども、その福知山線、阪急電車、映画にもなりました、国道176号、中国道も通っております、もちろんバス、タクシーもあります、採石場もありま

して、ダンプカー協会というような組織もありまして、大型車両の通行もあります。旅客や流通の拠点となっております。

しかしながら、公共交通機関があるものの、旧道もありまして、昔ながらの街道と言われる、いわゆる敵から攻め込まれないための、ちょっとジグザグとなった旧の街道なんかもあります。そういうような生活道路が、今も残って、歩行者、自転車、車両が分離されて安全に通行可能な道路環境整備というのは、まだまだ先の課題でございます。

以前、聞いたか、見たかですけれども、日本の道路というのは、徒歩あるいは、昔で言いますとかごとか馬というような、こういう交通であったために道路が狭くてよかったのですが、西洋は馬車というところからの交通手段があったために、道路は広がっているというような話を聞いたことがあります。ということで、昔からの町というのは、まだまだ狭い道路がある状況です。

自転車の交通についてですけれども、このような環境の中で、自転車も行き交っております。宝塚市の人身事故のうち4件に1件は自転車に関係するという事故になっております。兵庫の場合、あるいは兵庫県下の平均よりも高い状況で、何かの資料では全国の昨年の人身事故は13万2,000件ほどですか、そのうち自転車の事故は20%ぐらいのように書いてあったように思います。

宝塚市の事故概要はお手元資料の概要の数値を見ていただければと思いますけれども、これは、自転車が環境に優しく、健康増進に役立つという、先ほども言っておりますが、運転免許証も要らない、手軽で、最近はホームセンターなどでも売っておりますけれども、安くて便利な乗り物になっております。そして、災害時、阪神・淡路大震災もありましたし、東北の震災でもありましたが、こういった緊急的な交通手段にも使われております。ということで、多くの方が利用されていることが考えられます。宝塚市でも自転車の台数というのが、ちょっと増加傾向にあります。

さて、本題に入りますが、自転車の安全利用に関する条例に至る経緯でございますけれども、先ほど来、言っております交通ルールとマナーについては十分に認識されていません。車道の左側通行ということ、一時停止をすること、信号を守ることさえ守られていないということを、皆様も目撃されてきたこととは思います。こういった仕事をしている限り、何で守れないのというのは、日々思っております。また、遵守されていないこと、さらには自転車が安全に通行可能な道路の未整備なことも相まって、自転車に関係する交通事故が増えています。兵庫県では、人身事故件数は減少しているものの、宝塚市において

は、人身事故件数のうち、やはり先ほども言いましたが、自転車に関係する事故件数が、割合が高い状況になっています。

平成23年、テレビで、マスコミで自転車の交通事故増加とルール、マナーが悪いというような、よく報道、ニュースにもされました。そのときに、国民の関心が高まっていました。宝塚市でも、市議会で質問がありました。それで、条例制定に向けて検討をするというような答弁があり、現在、そのような、条例の制定に向けて取り組んでいく状況であります。

自転車利用の安全対策については、市、警察、交通安全協会など関係機関、団体と市民が協働して啓発、教育を推進しているところです。日々推進しているところですが、第9次の交通安全計画にも自転車条例を検討するというのをうたい、進めてまいりました。特に、最近、自転車運転者が加害者になることが、やはりありますので、ぜひとも推進するために、同条例を制定しようとするもので、このために知識経験者、行政、市民団体など、市民代表などをつくる条例の策定検討委員会を2回開き、あるいは市民パブリックコメント、庁内の法制審査会、都市経営会議など、そして、今年度6月市議会を経て、本年10月に制定しようとするものでございます。

この条例なんですけれども、基本的には理念条例でございまして、資料の条例案のポイントだけ説明させていただきます。

市の責務というのが、まずありまして、市がどのようなことをやっていくのか。1つは、この条例があることで、施策を行うことのよりどころにはなるのではないかと思います。なければ、しなくていいというのは極端ですけれども、これをしなくていいというのはありませんし、あれば、やはりそれに向かって、私たちが頑張るといような方向づけになるのではないかと思います。

そして、自転車利用者の責務でございまして、これには道路交通法にあえて書いてあることは定めておりません。ということで、警察署のほうでも法制のほうでも、重複して制定することはない。ただし、市民にとってはわかりやすい条例であるということで、参考にさせてもらったほかの自治体のほうでは、道路交通法のことを書いていらっしゃる場所もあります。ですが、あえて宝塚市のほうでは書いておりません。

また、自転車小売業者の役割。ここの文では、責務から、ここでは役割という言い方をしておりますけれども、責任づけというところまでは言っておりません。自転車の安全利用に関する教育、市がこれをしなければならぬということで、幼児から高齢者までとい

うところを書いております。

そして、道路環境の整備も、なかなか、これもプレッシャーになるんですが、そして、指導。警察署が言われる指導・取り締まりという分ではなしに、ここでは自分に対して、他人に対して危険な運転をする自転車利用者に対しては、やはり見て見ぬふりはできませんので、止めるところはできませんけれども、声かけというのは必要です。

そして、自転車安全利用推進員を置くことができるというような条例にしております。

条例の概要については、ちょっとカラー刷りのイラストをごらんいただければと思いますが、市民にもわかりやすいような形で、これには道路交通法の遵守事項、違反の項目をイラストに入れております。

条例の流れについては、これも別紙でつけておりますが、宝塚市で、当初3月条例だったのですが、市長選挙が4月にあった関係で、少し新市長になるかもわからないというような状況で、6月議会に延ばしたという経緯があります。

さて、具体的に何をするのかということで、今後、警察署、交通安全協会の皆様と協議が必要ですが、おおむね次のようなことを考えております。

1つには、自転車通行危険箇所の調査というのをやります。これも実際やったんですが、たまたま電線地中化による歩道整備で自転車通行レーンというのできる予定です。ここを、特に中心にマナーアップモデルゾーンというような形で自転車安全運転啓発路線、あるいは地域の指定という形で、これも警察署らと検討委員会が必要です。

そして、注意看板や路面シールの設置ということで、写真に載せております、左の写真のちょっと円筒がついているような建物は宝塚市役所庁舎なんですけれども、その付近の、ちょっとこの歩道が狭いので、ここは自転車も通れる歩道なんですけれども、ここに看板、あるいはシールをつけました。今日、ここに来る途中に、こちらの市のほうでも自転車を押して通ってくださいという路面シールがありました。参考になります。

そして、広報誌、ホームページなどでの事前PR、条例説明、自転車利用、これは民間のチラシでも、パンフレットにもありますが、条例を説明するチラシを作成し、啓発。学校、地域等での自転車の開催ということで、これも通年です。それと、中学校での開催を増やすことも課題です。高校も課題です。

平成24年度の自転車教室開催数、45回ということで、これは多いか少ないかは、また、それぞれの自治体によっては違うかと思えます。授業で、地域と協働してということが大事です。また、スタントマンによる学校での自転車教室なんかも、スポンサーがあれば

ば可能だと思っております。

自転車競技大会、小学生は4月、高齢者は5月ということで、小学生の自転車競技大会では、市の大会で優勝したチームが兵庫県大会に出場。昨年は優勝し、全国大会にも出場しました。ほかの自治体で出ていらっしゃるところもあるかと思えます。まだまだ全国レベルにはほど遠いんですが、そのようなこともありますし、高齢者の市の大会もあります。実は、明日、高齢者の大会を予定しております。

街頭啓発の強化、推進員、そして、私なりのプランですけれども、宝塚市、毎月20日はノーマイカーデーということですので、20にこじつけて、二輪ということで、二輪促進利用推進デーなんかもできればいいなと思っております。

まず、自転車の運転マナー、駐輪マナー、管理のマナー、盗難とかに遭ったりします、これは防犯になると思えますけれども、この後、ご講演もあるようですけれども、こういったものはすべて自転車の対策につながります。明日5月24日、高齢者自転車の大会のため、このあとの研修会であったり、明日の見学会は、私、参加できないので残念ですが、このような発表の場を与えていただきまして、ほんとうに私にとっては、充実した大会となりました。

皆様に感謝を申し上げまして、また、宝塚市は決して先進市ではありません。今日は、本当に勉強させてもらうつもりで発表させていただきました。感謝を申し上げまして、これを持ちまして意見発表といたします。

ありがとうございました。(拍手)

【司会】 意見発表でございました。ありがとうございました。

続きまして、大会決議を京都市自転車政策課調整係長 小川健一郎様にお願いをいたします。それでは、小川様、お願いいたします。

【京都市 小川係長】 それでは、発表させていただきます。冊子の11ページをお開きください。

第22回 自転車問題解決促進大会 大会決議

放置自転車問題の解決に向けて発足した「全国自転車問題自治体連絡協議会」の活動も22年目を迎えた。この間、鉄道駅周辺等における大量かつ無秩序な放置自転車問題は、「全国自転車問題自治体連絡協議会」加盟自治体をはじめ、全国の自治体の懸命な取り組みにかかわらず、未だ抜本的な解決に至っていないのが実情である。このように問題を長引かせてきたのは、自転車に関する総合政策が確立されないまま、自転車問題を市区町村

の事務に委ねてきたためといわざるを得ない。本協議会は、改めて自転車を交通体系の中に位置づけ、国や都道府県、更には放置を誘発している鉄道事業者等の積極的な取り組みを求めるものである。

さらに、地球温暖化に伴う環境問題への関心が高まり、環境にやさしい乗り物としての自転車の利活用が注目されている。しかしながら、これまでの道路整備が自動車優先に進められてきたため、道路は自転車にとって利用しやすい状況にはなく、自転車の走行環境等の整備が新たな課題となってきた。一方で、走行時の自転車利用者のマナーの問題も指摘されることが多くなっている。本協議会としては、安全で適正な自転車の利用という面から、国や都道府県の果たす役割に強く期待するとともに、会員自らも道路管理者としてのこの問題に取り組むものである。

以上の認識の下に、「全国自転車問題自治体連絡協議会」は、自転車問題の抜本的な解決を図り、自転車の適正利用を推進するため、関係各方面に対し下記の事項を要望する。

1 鉄道駅は、鉄道とバス・自転車交通との結節点として重要な施設であり、放置自転車を誘発する施設であることから、駅周辺の交通環境の整備の上からも、自転車等駐車場の整備は不可欠である。

従って、鉄道事業者においては、公共交通を運営する事業者としての社会的責任を自覚し、放置自転車問題に対し、自ら自転車駐車を整備・運営するほか、自転車駐車場用地を市区町村へ無償提供するなど、自転車等駐車対策に積極的に取り組むこと。

また、国においては、鉄道事業者に対し鉄道の駅に自転車駐車場の附置義務を課す「自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律」の改正を行うこと。

2 自転車が、他の交通機関に比べ、環境にやさしい乗り物であることは、論を待たない。その自転車の適正な利用を市民レベルで定着させるためには、自転車利用のマナーの向上を図るとともに、安全で快適に自転車を利用できる走行環境等の整備が必要である。ことに走行環境の整備は、自転車利用者の安全を図るものであると同時に、歩行者の安全も図るものでなければならないことから、道路管理者と交通管理者の連携が不可欠であり、現行の道路構造や交通規制のあり方にまで踏み込む必要がある。

一方、国及び都道府県においては、市区町村の行う自転車の走行環境の整備を含む自転車利用環境の整備に対し、従来の枠組みにとらわれることなく、財政的支援をはじめとした支援策を拡充・拡大するとともに、市区町村が走行環境整備に柔軟に取り組める環境の

創出に努めること。

以上決議する。

平成25年5月23日

全国自転車問題自治体連絡協議会

(拍 手)

【司会】 大会決議でございました。ありがとうございました。

最後に、来年度第23回総会の開催予定市であります越谷市協働安全部部长 荒井隆之様に閉会のご挨拶をお願いいたします。荒井様、お願いいたします。

【越谷市 荒井部長】 ただいまご紹介いただきました、越谷市協働安全部の荒井でございます。本日は、市長が公務のため出席できませんので、市長の代理といたしまして閉会のご挨拶をさせていただきます。

本日は、第22回全国自転車問題自治体連絡協議会の総会並びに促進大会に全国から大勢の皆様にご参加いただきまして、まことにありがとうございました。また、お忙しい中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様にご挨拶を申し上げます。

さて、来年、第23回の総会を埼玉県越谷市で開催させていただく予定でございます。2008年の都道府県別自転車保有台数統計資料によりますと、人口100人当たりの自転車保有台数、全国第1位が埼玉県でございます。越谷市におきましても、多くの市民が自転車を利用しております。

ここで少し越谷市の放置自転車の現状についてお話をさせていただきます。現在、市内には8つの駅がございまして、すべての駅周辺に自転車放置禁止区域を設定しており、自転車駐車場82カ所で、4万2,100台を収容できる自転車駐車場が整備されております。駅周辺の放置自転車対策につきましては、各駅に誘導整理員を配置し、指導、誘導を行っておりますが、放置自転車数は横ばい状態でございます。まだまだ放置されている自転車は多く、また、自転車に起因する交通事故の問題や走行空間の問題等、解決すべき課題も多くある状況でございます。

こうした課題の解決には、自治体のみならず、地域や鉄道事業者、駅周辺の商店街の皆様とも協力して、協働による放置自転車対策に取り組んでいく必要があると考えているところでございます。

今後も、本協議会のご協力をいただきまして、引き続き調査・研究、情報交換を進めていくことが必要不可欠と考えておりますので、皆様方のなお一層のご協力をお願いできれば

ばと申し上げます。

結びになりますが、全自連のますますの発展と、ご臨席の皆様のご健勝と、ますますのご活躍をご祈念申し上げまして、簡単でございますけれども、閉会の言葉とさせていただきます。来年もよろしく願いいたします。(拍手)

【司会】 閉会の言葉でございました。

これをもちまして、第22回全国自転車問題解決促進大会を終了させていただきます。

ご来賓の皆様には、大変お忙しいところご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。ありがとうございました。

それでは、皆様、ご退席されますので、拍手をもちましてお送りしたいと存じます。ありがとうございます。どうぞ、お進みくださいませ。

— 了 —

第22回 自転車問題解決促進大会

大会決議

放置自転車問題の解決に向けて発足した「全国自転車問題自治体連絡協議会」の活動も22年目を迎えた。この間、鉄道駅周辺等における大量かつ無秩序な放置自転車問題は、「全国自転車問題自治体連絡協議会」加盟自治体をはじめ、全国の自治体の懸命な取り組みに関わらず、未だ抜本的な解決に至っていないのが実情である。このように問題を長引かせてきたのは、自転車に関する総合政策が確立されないまま、自転車問題を市区町村の事務に委ねてきたためといわざるを得ない。本協議会は、改めて自転車を交通体系の中に位置付け、国や都道府県、更には放置を誘発している鉄道事業者等の積極的な取り組みを求めるものである。

さらに、地球温暖化に伴う環境問題への関心が高まり、環境にやさしい乗り物としての自転車の利活用が注目されている。しかしながら、これまでの道路整備が自動車優先に進められてきたため、道路は自転車にとって利用しやすい状況にはなく、自転車の走行環境等の整備が新たな課題となってきた。一方で、走行時の自転車利用者のマナーの問題も指摘されることが多くなっている。本協議会としては、安全で適正な自転車の利用という面から、国や都道府県の果たす役割に強く期待するとともに、会員自らも道路管理者としてこの問題に取り組むものである。

以上の認識の下に、「全国自転車問題自治体連絡協議会」は、自転車問題の抜本的な解決を図り、自転車の適正利用を推進するため、関係各方面に対し下記の事項を要望する。

記

- 1 鉄道駅は、鉄道とバス・自転車交通との結節点として重要な施設であり、放置自転車を誘発する施設であることから、駅周辺の交通環境の整備の上からも、自転車等駐車場の整備は不可欠である。

従って、鉄道事業者においては、公共交通を運営する事業者としての社会的責任を自覚し、放置自転車問題に対し、自ら自転車駐車を整備・運営するほか、自転車駐車場用地を市区町村へ無償提供するなど、自転車等駐車対策に積極的に取り組むこと。

また、国においては、鉄道事業者に対し鉄道の駅に自転車駐車場の付置義務を課す「自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律」の改正を行なうこと。

2 自転車は、他の交通機関に比べ、環境にやさしい乗り物であることは、論を待たない。その自転車の適正な利用を市民レベルで定着させるためには、自転車利用者のマナーの向上を図るとともに、安全で快適に自転車を利用できる走行環境等の整備が必要である。ことに走行環境の整備は、自転車利用者の安全を図るものであると同時に、歩行者の安全も図るものでなければならないことから、道路管理者と交通管理者の連携が不可欠であり、現行の道路構造や交通規制のあり方にまで踏み込む必要がある。

一方、国及び都道府県においては、市区町村の行う自転車の走行環境の整備を含む自転車利用環境の整備に対し、従来の枠組みにとらわれることなく、財政的支援をはじめとした支援策を拡充・拡大するとともに、市区町村が走行環境整備に柔軟に取り組める環境の創出に努めること。

以上決議する。

平成25年5月23日

全国自転車問題自治体連絡協議会